

30周年記念シンポジウム



Murakami Yuko

司会 村上祐子氏

KBS京都



Nishiwaki Takatoshi

西脇隆俊

京都府知事



Ima Kuruyo

今くるよ氏

よしもとクリエイティブ・エージェンシータレント
京都府文化観光大使

Murata Yoshihiro

村田吉弘氏

株式会社菊の井代表取締役
NPO法人日本料理アカデミー理事長
一般社団法人全日本・食学会理事長

テーマ

「女性がつなぐ文化と伝統 新しい京都に」

司会 KYOのあけぼのフェスティバル30周年記念シンポジウムを始めさせていただきます。平成元年、1989年からこのフェスティバルが始まりました。男女が社会の対等な構成員として輝ける男女共同参画社会の実現を目指してスタートをいたしまして、今年で30回。「女性がつなぐ文化と伝統」について、大いに語っていただきます。あけぼのフェスティバルの立ち上げから30年。知事、この30年の歩みはいかがでしょう？

知事 30年前、国立国際会館に4,000人の方が集まって、第1回目が始まりました。その前年には、国体発祥の地である京都において、2巡目の初回大会が実施され、その時に地域の女性が支えとなり国体を盛り上げ、本日あけぼの賞を受賞された京都女性スポーツの会もそれをご縁に始まったと聞いております。テーマも、その時代時代の背景を表しており、着実に世の中は変わり、まさに変えてきた力がこのフェスティバルにあったのではないのでしょうか。

司会 さて、それぞれの文化と伝統、女性がどうつないでいるかという話を各分野からお話いただきたいと思います。

村田 料理界は、女性社会です。陣頭指揮を取るのは女将さん。調理場も、この頃は女性も増えてきましたが、まだ男性社会。表に立つのは女性なんです。ですから、僕らも女将さんに何か言われたら、「はい、かしこまりました」って。祇園町も、それからお茶の世界もお花の世界も京都の文化は女性で守られています。

司会 では、漫才界では、今師匠どうでしょう？

今 私が入った頃は、女性は人数も少なかったです。いくよさんと漫才をしていた1980年代に漫才ブームがあり夜中に1時間とか1時間半とかのスペシャル番組を3本撮り、それが終わって寝ずにそのまま大阪へ帰ってまた漫才させて

◆登壇者

村田 吉弘氏

徳島の井代表取締役、NPO法人日本料理アカデミー理事長、
(一社)全日本・食学会理事長

今くるよ氏

よしもとクリエイティブ・エージェンシー所属、
京都府文化観光大使

西脇 隆俊

京都府知事

●司会 村上 祐子

KBS京都



もらってという時代です。今では、女性芸人が何千組っているんです。入って来てすぐ辞める方もいるけど、(女性芸人の)居場所がちゃんとあるんです。ただ、ちょっと心配なのは一生続けていくかどうかです。一生続けていくとになったら、私みたいになるでしょう、ほら。いつ結婚するんやって。

司会 この30年、ほんとに女性の活躍っていうのが目立ってきているわけですけど、料理人の女性っていうのは、どうですか。

村田 増えてきてます。ですから、こちらも受け入れ体制をちゃんと整えていかないとけないと思っています。男性よりね、真面目でよく働き、きめ細やか。もう厨房の中、女性ばかりでも大丈夫な時代がもうじきやって来ると思いますよ。

司会 頼もしい言葉ですね。そして京料理が、京都の伝統産業をリードしてきたっていうところもありますよね。

村田 料理屋には様々なものがいります。一つでも無くなったら困るわけです。畳が無くなったらどうしようもない、表具が無くなったらどうしようもない。器も漆器もそうです。料理屋は京都の伝統産業が全部必要です。

司会 その伝統産業には女性の活躍が必要ということになりますよね。

村田 当然ですね。

司会 女性の活躍という観点から、漫才界はどうですか？

今 昔は、漫才師はおもしろい顔しかできない、漫才師は家のことはほったらかしで何にもできないと言われていましたが、そうではないと思います。これからは、よく働かし、よく片付けられるし、何でもよく知っているし、絶対そんな女性の漫才師がものすごく増えると思いますね。

司会 こうやって女性の活躍を御紹介いただいているのですが、この場にいらっしゃる皆さん方は、地域の女性リーダーとして大いに活躍なさっている方ですよね、地域で活躍する女性の育成といえば、女性の船じゃないですか？

知事 私、4月に知事になり女性の船に乗る予定でしたが、北海道胆振東部の地震があり今年度は残念ながら中止になりました。聞いた話ですが、由良川が氾濫しバスの上に人が乗ったという平成16年台風23号の時に、床上浸水の被害に遭ったお家がたまたま女性の船の参加者のお宅だったということで、ステップあげぼのの皆様がそこに全員

集合してあつという間に、そのお家だけ片付いた。そういう団結もあります。

司会 女性の船って、皆さん、知り合い同士で行くわけではないですからね。その場で皆さん初めまして、各班に分かれて3泊4日でいろんなことを議論する。そこで課題を見つけて、結局は地域に戻って活動するということでしょう。すごいパワーですよ。

知事 災害関連でお話しておきますと、避難所運営は東日本大震災の時よりも進化していて、女性の意見を聞いて決めるというのがほぼルールになりつつあります。どういうことかという、役所の人はみんな、災害が起こったばかりで大変でしょう。現場に行ったりするので、その避難所は結局、避難されている女性に頼るしかない。だから、避難所の構造とか、食料の配り方とかトイレの設置とか、女性の過ごしやすいように進められています。

司会 日々の生活を通じていろいろと気づきがある中で、提案もできるし、動けるということですね。防災減災面でも女性がきめ細やかに、その施策のサポートをしていただかなければいけない、そんな思いもします。さて、京都は2021年、ターニングポイントですね。文化庁がやってきます。

知事 順に追っていきますと、来年2019年はラグビーのワールドカップがあって、ICOMという世界博物館会議があります。2020年は東京オリンピック・パラリンピックで、オリンピック競技はもちろん東京、首都圏での開催ですが、文化の方、日本博2020は、京都で行って欲しいと政府にお願いしています。その次の年にワールドマスターズゲームズ関西があり、文化庁が京都に来るとということで、文化を盛り上げていかなければならない。京都の文化というのは、1000年、1200年というすごい歴史と伝統がありますが、もう一つは生活に根付いているということが重要です。



門掃きとか、地藏盆とかお祭りとかいろいろありますよね。そういうのが生活の四季折々の中に織り込まれています。生活文化に馴染んだ文化ということも、文化庁が来たら主張したいです。やっぱり日本全国の中でも希有だと思います。

司会 この場にいらっしゃる皆さま方が、地域のリーダーとしてその生活文化に携わっているからこそ、その強い礎になっているのではないかと思います。それを皆さま、若い人に伝えていらっしゃいますでしょう。これがやはり「女性がつなぐ」ということになりませんか。最初のあけぼのフェスティバル、今からスタートという感じだったと思いますが、知事、もうあけぼのではないですね。

知事 状況は明らかにあけぼのではなく、共働きの率や女性の就業率はかなり上がってきています。女性の意識改革とか、女性が社会進出しようとするところはもうかなりのレベルまでできている一方で、男性はどうするのかというのが実は一番、これからの課題になると思います。例えば私、子育て環境日本一を目指すと公約して取り組んでいます。保育所のこともありますが、子どもが病気をしたが女性が休みを取れない場合、パートナーの方が休みを取れるのか、そういう漠然とした不安みたいなものが実は多い。男性の協力というのは、いろんな場面で出てくると思います。

司会 そうですね、働きながら妊娠して出産して前の職場に戻りたいと考えるより、先に保育園探しですもんね。その意味では地域で上手くコミュニケーションが図れて、ネットワークを作っていたら、ちょっと子どもを預かってもらうというのは、昔はあったと思いますがどうでしょう。





知事 京都は区民運動会とか、地域の力が他の地域に比べて、まだ残っていますよね。そういう地域の力を引き出して、子どもの見守りや高齢者の見守り、全部それができればいい。また、これは女性だけに頼ってはいけないという思いもあります。男性が社会人として働いている時から地域と関わっていけるよう、女性に引きずり込んでもらえるとうれしいと思います。

司会 さらに女性が地域で活躍するために、料理の世界ではまだまだお話しはありますか。

村田 そうですね、今、日本料理アカデミーでは食育に取り組んでいます。子どもの食育というのは、昔でしたらおじいちゃん、おばあちゃん、両親がしましたが、できなくなったのであれば、地域で取り組まないといけないと、京都市と連携し食育指導員の制度を創らせてもらいました。食育をやりたい人に手を挙げてもらい、市内の小学校へくまなく行っていただきます。大方、女性の方です。女性の方が子どもも馴染みやすいですね。京都は、5回中4回が和食給食。1回は他の国の料理を食べるのも、食育ということでパンです。別に京のおばんざいを出すわけではありません。サラダではなくて、ほうれん草の胡麻和えにする。スープではなく味噌汁に。麦の入ったご飯を食べて、主菜は唐揚げでもいいというようなことです。伝承というのは、家族を中心に伝承されていくもので、伝統を守ると口では簡単に言いますが、伝統を守るという意識を持って昔からこれをやってきた、今年も邪魔くさいけどやらないといけないなって取り組むのは女性ですよ。

司会 今回のテーマには「女性がつなぐ文化と伝統、新しい京都に」というふうになっておりますが、来年から西脇知事のもとで新しい総合計画がスタートするんですよね。その中には今のお話に出てきたような、女性の活躍を礎に新しい京都へということも含まれるのでしょうか。

知事 人口減少社会、少子高齢化は日本全体で取り組まないといけない問題です。もともと京都にはオール京都という

言葉がありまして、役所だけでは当然だめ、皆で支えていかないといけない。一つは先ほど言った地域で、食育ももちろん認知症の方や子どもの見守り、ちょっと近所の人が子どもを預かってくれたらすごく助かるなど、その地域の力を強めていくのですが、そこで力になるのがやっぱり女性。

司会 今師匠は、そんな京都で生まれ育って、そして今も活躍なさっておられます。そういう京都のこれからに対する思いはいかがですか。

今 やっぱり漫才の話になりますが、女性がものすごく増えました。女性たちは皆様に喜んでいただきたい、笑っていただきたいという思いで一生懸命ですので、どうか皆さん、よろしく願いいたします。お仕事がありましたら、いつでも言うてください。喜んでいただくように頑張っていますので。

司会 村田さんも、今後の女性の活躍についてメッセージを。

村田 京都には革命は似合わなくて、維新ですよ。ですから古いことを大切にしながら、新しくしていく。これからは女性が社会で活躍していく維新をやっていくとダメやろうと。行政の方より多くのサポートをお願いします。

司会 ありがとうございます。それでは最後にやはり知事からも。

知事 京都の歴史と伝統、それは常に新しいものにチャレンジするという、この意欲的な姿勢が京都を文化都市にする。京都にはブランド力と強みがあります。これは経済界もそうですし、様々な場面で出てきます。それを支えておられるのは、地域の力、生活文化、それから女性の力ということです。このあけぼのフェスティバルも、名前は変えない方がいいと思いますが、精神としては、あけぼのから次のステップに行くという意味で、どんどん新しい取り組みを行っていただきたいし、今師匠にも、京都文化観光大使って外に宣伝だけじゃなくて、京都府民に京都の良さをわかってもらうようなイベントにも参加していただきたいと思います。

司会 まだまだお話を続けたいのですが、時間がまいりました。以上をもちまして、KYOのあけぼのフェスティバル30周年記念シンポジウムを終わらせていただきます。長時間皆さん、どうもありがとうございました。

